

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

まちなみとしての新サークル棟の挑戦

# 日本大学理工学部 船橋キャンパス新サークル棟

日本大学理工学部船橋キャンパス内に建つ新サークル棟は約50のサークルが集まり活動をおこなっている。キャンパスの外周道路に面し住宅地が背景にある立地条件から、周囲との調和を図れるよう圧迫感のない平屋建てとし、外観もコストとのバランスを計りながら断熱材を芯材とした耐火金属サンドイッチパネルとガラスで表現している。

平面計画はグラウンドやテニスコート、武道場の中心に位置し、7方向からアクセスできるようになっている。一個室は構造スパンである3.8m×3.2mをモジュールとし、57.0m×25.6mの平面に個室とミーティング室、トイレ等と外部扱いの通路を配しているがクランクした通路の先にグラウンドが見えたり、サークルの様子が垣間見られたりとサークル同士のコミュニケーションも図れるようになったそうだ。

断面計画は通路の天井高約2.4mに対し、個室の天井高を3.75mとすることで高窓から採光と換気がとれるように工夫している。高窓から漏れる光は学生達の活動の気配を窓越しに感じられ、周辺のまちへのアプローチとなる。

鉄骨造の建物として将来のメンテナンスにはやや不安が残るものの、学生の為の建物が本来の活動の意義を超えて、学生の活動の幅を広げたといえる。  
(藤本 香)



上空から見た建物全景



ミーティングルーム付近内観  
(撮影/中川 敦玲)

建築主：日本大学理工学部

設計：日本大学理工学部 今村雅樹+山中新太郎  
+株式会社協立建築設計事務所

施工：株式会社熊谷組

所在地：船橋市習志野台7-14-1

9

## 建築文化奨励賞

景観上優れた建築物

海を一望する週末ライフの舞台

# 南房総の家

ソファに身を沈め、穏やかな内房の海を眺めて、1日過ごせる別荘があったら。階上のベッドに横たわると緑深い山が迫っている。夕日に染まるジャクジーで身も心もリラックス・・・あこがれが現実となった家だ。真っ白な1枚の紙に切り込みを入れ折り曲げた造形が潔い。それが一面の青芝の上にポンと置かれている。フォトジェニックなセカンドハウスを、熟年夫婦がアクティブに楽しんでおられた。奥様がここで、女友達と週末を過ごされることもよくあるという。

南房総の沿岸は、富士山が大きく見える冬には風が強く、防風・防砂の松林で緑取られてきた。先人たちがこつこつとつくりあげてきた景観だ。鋸山の南のこの辺りも松林に守られて人びとは暮らしてきた。この家の建つ敷地は、松林を断ち切ってつくられた町営プール跡地だという。これほど余裕のある建物であれば、よそ者として特権的な土地を占有するせめてものお返しに、往年の松林の連続性を少しでも紡ぎ直すやさしさもありえたのではないかとはいえ、大判ガラス越しのスカッとした眺望とはどうにも共存しない。ここはカリフォルニアか地中海の富豪の隠れ家かと思ふほど、確かに美しく捨てがたい。  
(岡部 明子)

建築主：T氏

設計：株式会社仲亀清進建築事務所

施工：株式会社屋代工務店

所在地：安房郡



南西から建物を見る



バスルームから海を見る